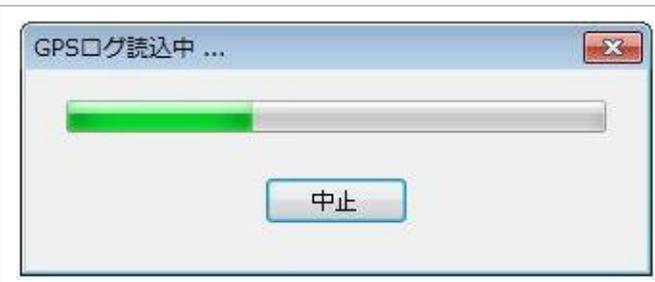
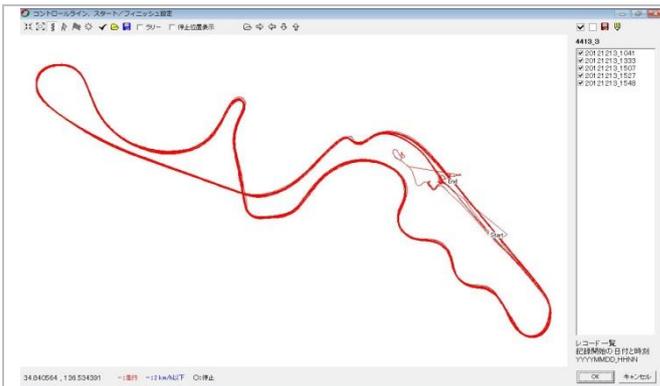


2013年1月16日

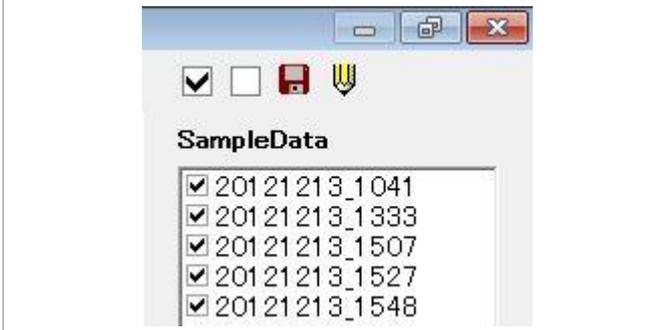
デジスパイス解析ソフトバージョンアップ

1. プログラムバージョン Ver2.3.0
2. 追加仕様
 - 2.1 ロガーからダウンロードしたデータを記録した時間帯ごとに分割管理できるようにしました。
 - 2.2 解析データのデータ名を変更できるようにしました。
 - 2.3 フリクションサークル（摩擦円）に車両別のG、速度を表示します。
 - 2.4 フリクションサークル（摩擦円）に基準車(赤車両)のGの軌跡を表示します。
- 3.追加仕様詳細
 - 3.1 ロガーからダウンロードしたデータを記録した時間帯ごとに分割管理できるようにしました。

	<p>《GPS からログ読込》を押す。</p>
	<p>自動で走行データの読み込みを開始</p>
	<p>読み込み終了後、 『ログに名前を付けて保存』 ウィンドウが開きますので、 名前を付けて保存してください。 ※初期値はダウンロードの 年月日時となっています。</p>



ロガー内のデータが全て表示されます。



※右上のツールバー

ロガーのレコードを表示
レコード開始日時を表示

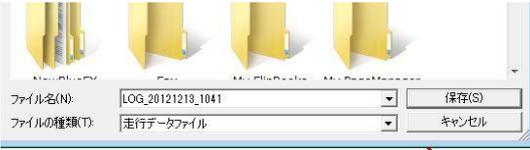
【レコードデータ】

ロガーからダウンロードしたログデータには1つまたは複数のレコードデータが保存されています。たとえば午前と午後の2回走行ログをとった場合は2つのレコードデータがあることとなります。ログを取得したあと60秒以上ロガーの電源を切り再びログを取得した場合、あるいはログ取得中に60秒以上のログ自動停止が入った場合、その前後のログは別々のレコードデータとなります。連続したひと固まりの軌跡データをレコードデータと呼びます。

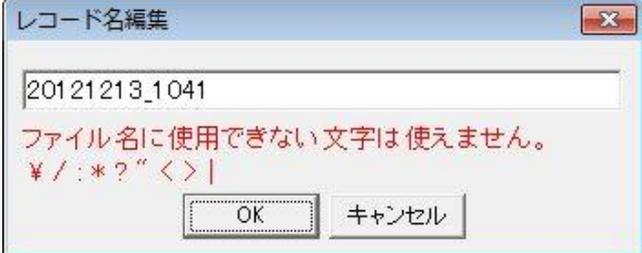
■ ツールバー

ツールバー	詳細	
	表示	詳細
	<input checked="" type="checkbox"/>	レコードを全て選択
	<input type="checkbox"/>	レコードを全て解除
		選択レコードを一つの走行データとして保存。レコード名で選択したレコードを分割して保存する。
		レコード名を編集
	ログデータファイル名表示	
		レコードを選択する。チェックボックスをクリックすることで選択可能
表示日時は、データ取得開始した日時が表示されています。		

■ 走行データ保存

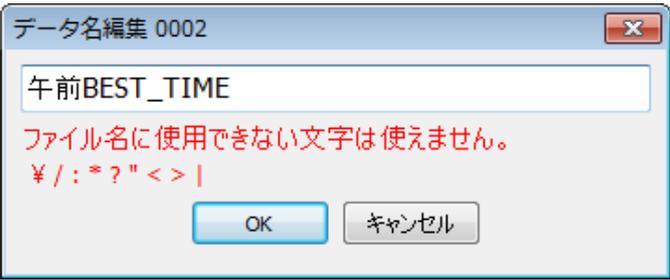
	<p>1つあるいは複数の選択しているレコードを走行データとして保存します。</p> <p>矢印キーでコース図に対して移動した場合、移動後のレコードデータが保存されます。</p>
	<p>LOG_DATE+TIME の初期値が表示されます。</p> <p>分かりやすいファイル名に変更して管理してください。</p>

■ レコード名編集

	<p>選択している、レコードのファイル名を編集します。</p>
	<p>DATE+TIME の初期値が表示されます。</p> <p>管理しやすい名前に変更してください。</p>

3.2 解析データの走行データ名を変更できるようにしました。

	<p>CSV 保存したい走行データを選択する。</p> <p>この場合は 20121213_1041_002 を選択しています。</p> <p>選択されると点線で囲まれます。</p>
---	---



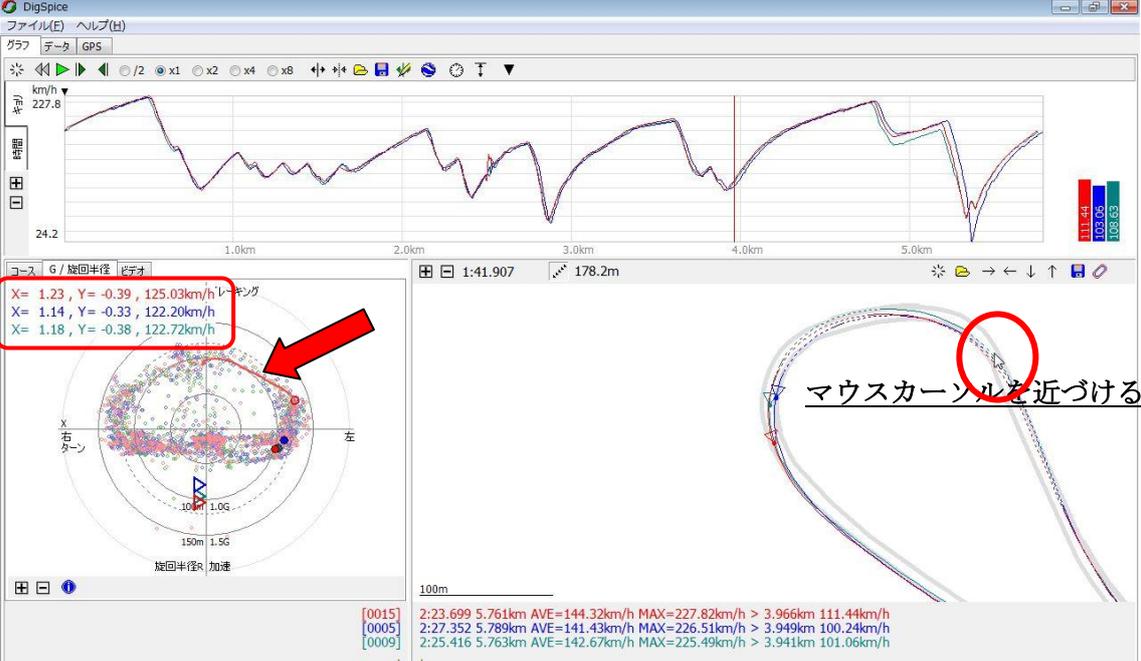
走行データを管理しやすい名前に編集する。



データ名	データ番号
20121213_1041	0000
20121213_1041	0001
午前BEST_TIME	0002

データ名変更後の表示

3.3 フリクションサークル（摩擦円）に車両別の G、速度を表示します。



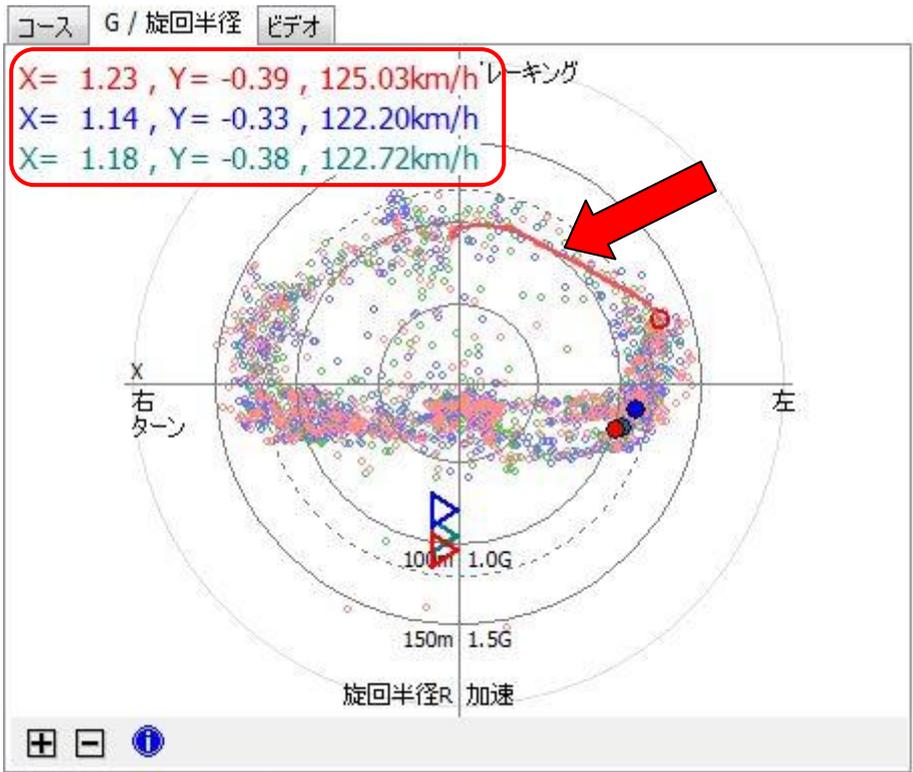
マウスカーソルを近づける

車両番号	X	Y	速度 (km/h)
[0015]	1.23	-0.39	125.03
[0005]	1.14	-0.33	122.20
[0009]	1.18	-0.38	122.72

アニメーションウィンドウの走行軌跡にマウスカーソルを持っていくと、カーソルに一番近い地点の G および速度を車両別に G/旋回半径ウィンドウに表示します。（赤囲い）

3.4 フリクションサークル（摩擦円）に基準車(赤車両)の G の軌跡を表示します。

アニメーション画面でマウスを近付けるとその地点までの前 2 秒間の G の推移を表示します。（赤色の基準車両データのみ）



以上